

自ら学び考える総合的な学習の時間の指導

—伝承唄を教材にした総合的な学習の時間の展開—

長期研修員 高 崎 守 司

Takasaki Shuuji

要 旨

総合的な学習の時間が完全実施されて2年、私の置籍校では様々な課題が出てきた。その課題を克服するために、生徒にとって身近な地域教材の開発の必要性を感じた。そこで、本研究では、地域に伝わる「伝承唄」を教材として、生徒の自ら学び考える力を育てるための方途について考察した。

キーワード： 伝承唄教材、教科・特別活動との関連、興味・関心を育てる指導

1 はじめに

総合的な学習の時間のねらいは、各学校の創意工夫を生かした横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習などを通して、自ら学び、考え、主体的に判断し、問題解決する資質や能力を育てることである。

折しも、平成15年12月に一部改正された学習指導要領には、「各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること」という文言が盛り込まれた。

そこで、本研究では、それを具現化させるため、地域の伝承唄を収集・分析し、教科学習や特別活動、さらに人権学習との連携を図った総合的な学習の時間の在り方を探る。

2 研究目的

生徒に自ら学び考える力を付けるため、教科や特別活動で身に付けた基礎・基本となる力や知識・技能を相互に関連付けた指導計画を作成する。また、地域の人々からの聞き取りを通して収集した伝承唄が、教材開発の視点であるモチベーション（動機付け）、オペレーション（操作性）、セルフコントロール（自己統制力）の要件をどれだけ満たしているか、また、この教材によって生徒が意欲的に学習の道筋を自ら切り開いていくことができるかを検証する。

3 研究方法

- (1) 総合的な学習の時間におけるこれまでの課題の克服に向けて、先行文献を研究する。
- (2) 地域の教材としての伝承唄の収集・整理・分析を行う。
- (3) 指導計画を作成して、単元プランを組み立てる。

4 研究内容

総合的な学習の時間は、児童生徒の主体性に任せる学習ではなく、主体性を育てる学習である。

主体性を育てるための教材や内容を児童生徒の発達段階を基に明確にし、学校としての共通理解を図って計画的に指導を進めることが重要である。そして、教科等で学習した基礎的・基本的な力は総合的な学習の時間には不可欠であり、それらの力を使いながら学びを進めることで、この基礎的・基本的な力はより実践的な生きる力になる。また、生徒が意欲的に取り組んだ学習内容は、生涯にわたり心に残るものであるだけに、その際のような出会いと学びでは、意義あるものを取り入れていくことが大切である。このことを踏まえて、以下(1)～(3)の研究内容を設定した。

(1) 総合的な学習の時間の課題克服に向けて

ア 教材の工夫

社会・時代の変化とともに生徒をとりまく地域の様子が大きく変貌しつつある。このことから、社会科や特別活動でのフィールドワークでは、地域の人々の厳しかった生活をイメージしたり、願いや生き様を知ることが困難になってきている。この課題を克服するための手だてとして、自主教材の開発に着眼した。それは、古老からの聞き取りとその際に紹介してくれる伝承唄を教材として用い、展開していくことである。例えば、「チョイナ節」で「朝の早うから三足片足」と草履作りの苦勞を唄っているなら「草履作り」の体験を、「草取り唄」で「麦のドロ食うて二荷山(ニカヤマ)すれば」と一日に二度も裏山に登り柴を取る苦勞を唄っていれば、実際に裏山に登る体験を試みる。伝承唄は、このような体験活動を通して地域の歴史や産業などを深く考えることができる教材であると同時に、生徒に多くの学習の課題を発見させることができる教材である。

イ 教科指導と特別活動等の充実

総合的な学習の時間でグループ学習を取り入れた時、生徒がグループの一部の人に頼る傾向が見られた。この課題の克服のために、グループ全員が話し合いに参加し、自らの考えを深めていくことができるような指導の工夫が必要である。そこで、教科学習や特別活動の時間においても、グループ学習を多く取り入れ、意見交換の場面を設定し、コミュニケーション能力を高める授業の在り方を模索することが大切になってくる。特に、国語科の学習において、「話す・聞く」能力を高めることが求められる。

ウ 総合的な学習の時間と教科・特別活動を関連させる工夫

生徒が調べたことを発表する形態も画一的なものになってきた。模造紙に調べてきたことを書いて、原稿を読むだけの発表などが多くなり、総合的な学習の時間の目標である「豊かな表現力」を身に付けることが困難になってきた。そこで、豊かな表現力を養うために発表形態を工夫することが必要となった。例えば、楽器を演奏する、地域のお年寄りを招いて合唱するなど、様々な形態を生徒に考えさせることで授業の活性化を図ることである。そのためには、音楽科との連携を図り、教科で身に付けた基礎的・基本的な力を生かした発表を工夫することが求められる。

(2) 地域の教材としての「伝承唄」

ア 教材のもつ意味

地域の古老の話に出てくる伝承唄は、人々の生活や仕事・願い等を映し出しており、教材としての価値は大きい。被差別地域の人々に伝承唄が伝わること自体が、厳しい生活や差別の中を生きてきたことを裏付けている。そこには、人間のエネルギーや生き方の強さを感じ取ることができ、人権学習との組み合わせの中で活用の幅が広がることは自明である。例えば、「小林の遊び唄」では、村の当時の娘たちがつらい夜なべ仕事の時に、唄で元気を付け合いながらやり抜いたことなどが唄われている。このように、伝承唄は、当時の人々の生活の厳しさやそこで育まれた人間のエネルギーをあらわすなど意義あるものを備えた教材であり、総合的な学習の時間のねらいに

適した教材であると言える。教材開発の視点を次の5点に整理した。

- 1) 伝承唄の収集
- 2) 唄の歌詞の解釈
- 3) 唄と仕事や生活等の分析
- 4) 伝承唄の採譜
- 5) 楽譜や歌詞のデータベース化

[歌詞、デジタル化された曲(MIDI)や楽譜等の詳細については、平成16年度県立教育研究所長期研修員報告書、並びに、URL <http://www2.ocn.ne.jp/~mamoji21/top-page.htm> を参照下さい。]

イ 教材の分析

(ア) 特性要因図から見た伝承唄の位置

特性要因図(図2)は、伝承唄や地域で聞き取った内容を素材にした総合的な学習の時間が成立していくための要因を示したものである。それを見ると、地域の聞き取りや伝承唄教材によって「付けたい7つの力」や

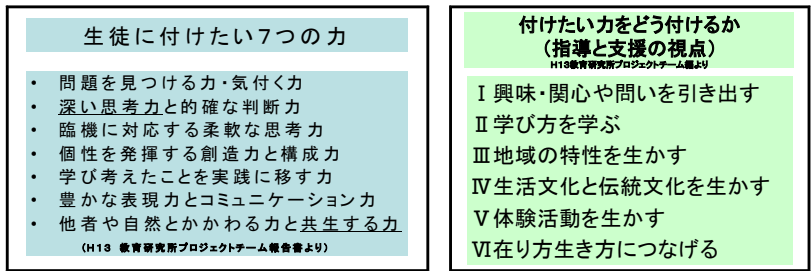


図1 県立教育研究所「総合的な学習の時間Ⅱ」より

「付けたい力をどう付けるか」(図1)の項目がすべて網羅されることがわかる。総合的な学習の時間で育てるべき力、すなわち生涯学習社会における生きる力の基礎となる「知る力」「創造する力」「表現する力」「活動する力」「考える力」(図2)を育てることを可能にしている。

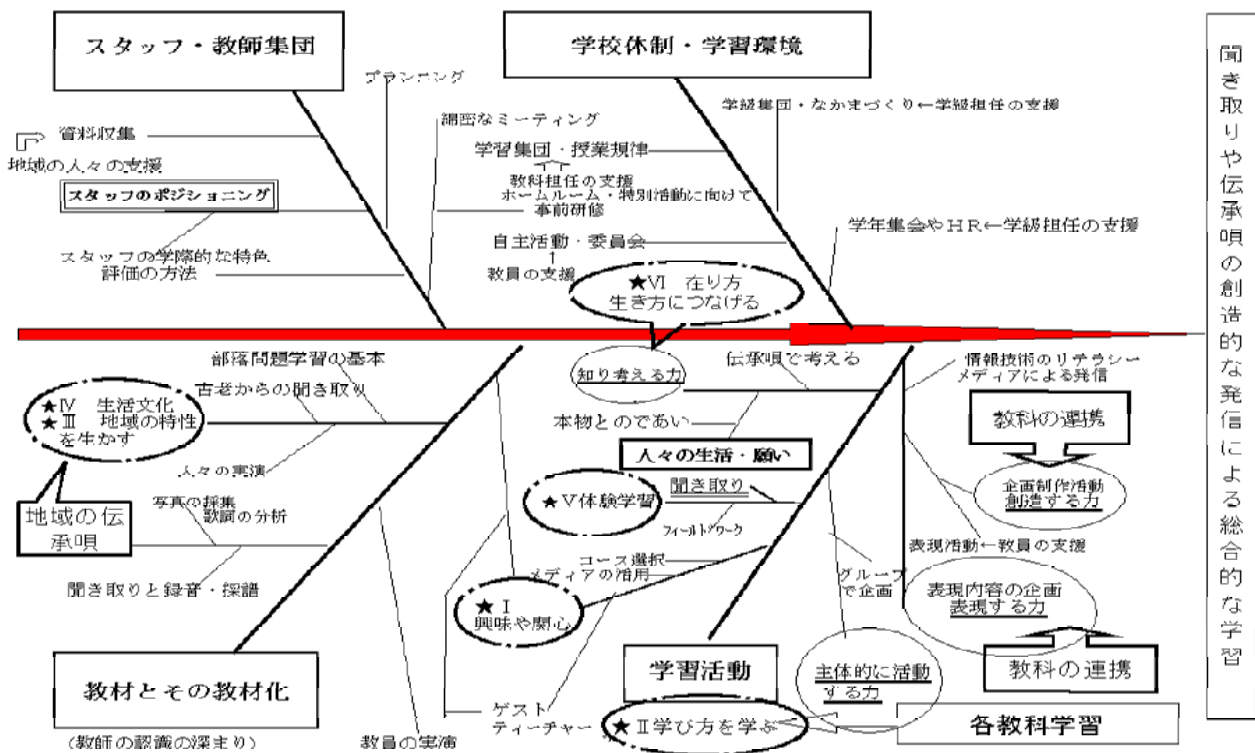


図2 特性要因図

(イ) 教材としての三つの要件(モチベーション、オペレーション、セルフコントロールについて)

「教育フォーラム24」(金子書房)の中で神戸大の浅田匡氏は、自作する教材が備えるべき要件の特徴的なものとしてモチベーション、オペレーション、セルフコントロールを挙げているが、伝承唄教材はこの三つの要件を兼ね備えている。モチベーションに関しては、「おばあちゃんに聞

く」などの体験的な出会いをしたり、身近な音楽にアレンジしたりすることが興味・関心を高めることにつながる。また、オペレーションに関しては、伝承唄の収集・楽譜化・歌詞の解釈など教科や特別活動で学んだことを生かしたり、人権学習と関連させたりすることができ、広い操作性がある。さらに、セルフコントロールに関しては、教材が地域の伝承唄という点で歌詞が生徒に身近であり、考えが深まりやすいなど、少ない支援の中でも生徒自身が自ら学習を進めていくことができるという点で教材自体が主体的な活動を促す条件を備えている。

(3) 教科との関連を図った指導計画（第2学年）

ア 第1学年の各教科や特別活動で身に付けた基礎的・基本的な力を生かし、第2学年の計画を立てる。具体的には、第1学年の人権学習における「ゲストの話聞き取る力、グループで活動する力」や「質問・感想を述べる力」であり、音楽科で身に付けた「国際理解の力、マイノリティの音楽を理解する力」や「リコーダー、ギターの基本」、国語科で身に付けた「インタビューの仕方、取材の要点整理の力」などを生かした計画である。第2学年においてこれらを生かした指導計画を作成した。

イ 指導計画 ***『地域文化発、「ロック・ザ・ムラ」発信』***（総合計26時間）

★ねらい・・・聞き取りや伝承唄等を教材に、自ら考え、課題を解決する学び方を知る。

1次	地域の人々の聞き取りをする。 ★問題を見つける力・気付く力	全6時間										
(1)オリエンテーションで、ねらい・内容・趣旨の説明を行う。人権学習で学んだことを復習し、興味・関心を持たせる。(1時間) (2)教員による伝承唄の演奏や導入のビデオを見せて、関心のある課題を発見する。(1時間) (3)学校に校区のおばあちゃんを招いて、話や唄を聞き、感想を書く。(2時間) (4)心に残ったことを出し合い、ブレインストーミングとKJ法で分類をする。(2時間)												
2次	グループごとの聞き取りを持ち帰り、地域の社会的・経済的な立場を学ぶ。 ★深い思考力と的確な判断力 ★他者とかわる力	全8時間										
(1)自分の学びたい内容を含んだグループを選択する。(1時間) (2)行き先別に各グループで集まり、次の活動での課題について話し合う。(1時間) (3)各地域センターなどで聞き取りや体験をし、記録する。(4時間) (4)特別活動の時間と関連付けて、地域のもつ課題の学習を深める。(2時間)												
3次	学習した内容をグループごとに多様な方法で発表・表現する。 ★個性を発揮する創造力と構成力 ★豊かな表現力とコミュニケーション力	全6時間										
(1)学年の報告会にむけて、グループごとに内容を企画する。(2時間) (2)発表内容と発表方法を工夫し、制作・創作をする。(4時間)												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">学習活動の内容として考えられる例</th> <th style="width: 50%;">連携・支援の教科等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①伝承唄の譜面・歌詞作成と音のデジタル保存</td> <td>特別活動・総合情報学習・国語科・音楽科</td> </tr> <tr> <td>②アレンジ曲の作成や合奏曲の編曲、練習・発表</td> <td>音楽科・特別活動</td> </tr> <tr> <td>③草履等の仕事体験を情報機器により報告</td> <td>技術科・総合情報学習・特別活動</td> </tr> <tr> <td>④地域の願いや思い、食文化、仕事、歴史</td> <td>家庭科・社会科・特別活動・道徳</td> </tr> </tbody> </table>			学習活動の内容として考えられる例	連携・支援の教科等	①伝承唄の譜面・歌詞作成と音のデジタル保存	特別活動・総合情報学習・国語科・音楽科	②アレンジ曲の作成や合奏曲の編曲、練習・発表	音楽科・特別活動	③草履等の仕事体験を情報機器により報告	技術科・総合情報学習・特別活動	④地域の願いや思い、食文化、仕事、歴史	家庭科・社会科・特別活動・道徳
学習活動の内容として考えられる例	連携・支援の教科等											
①伝承唄の譜面・歌詞作成と音のデジタル保存	特別活動・総合情報学習・国語科・音楽科											
②アレンジ曲の作成や合奏曲の編曲、練習・発表	音楽科・特別活動											
③草履等の仕事体験を情報機器により報告	技術科・総合情報学習・特別活動											
④地域の願いや思い、食文化、仕事、歴史	家庭科・社会科・特別活動・道徳											
(3)振り返りをし、地域のおじいちゃんやおばあちゃんに対して、できることはないかを話し合う。 (お礼の手紙、合奏や報告を聞いてもらう、一緒に唄を唄う、「憩いの家」の定期訪問など)												

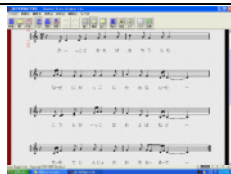

4次	伝承唄アレンジ曲を全員合奏し、文化を紹介するなどの発表をする。 ★学び考えたことを実践に移す力 ★豊かな表現力とコミュニケーション力	全4時間
(1)	「小林の遊び唄」のアレンジ曲の全員合奏を、練習して発表する。	(3時間)
(2)	地域の人々を招き、体験した内容をスライドなどで発表する。 (全員による表現活動は豊かな感性を培い、地域の文化や人々に誇りを感じ取ることができる。)	(1時間)
5次	振り返り学習により、自己の成長を確認し、生き方を深く考える。 ★深い思考力と的確な判断力 ★自己の在り方や生き方を考える総合力	全2時間
(1)	今までのワークシートを確認しながら、自己評価をする。	(1時間)
(2)	次回、次年度に向けての自らの課題を見出す。 (人権感覚を高め、地域について理解を深めながら今後の学習課題を見付ける。)	(1時間)

◎この指導計画のポイント


- ①3次では「各教科との連携」を重視している。
- ②4次では「地域とのつながり（双方向の発信）」を目指している。
- ③5次では「振り返りと考察」を重視して、生徒が次の課題を見つけ出せるようにしている。

ウ 単元プランの例

ここでは単元プランの第3次、第4次における、予想される生徒の活動例とそこで付けたい力、及び教員の指導すべきことを一覧表に示した。特に、第3次では教科との連携を重視し、基礎的・基本的な力を用いて学習を進め、第4次では自ら考え、判断し、創造的な活動を促すことを目指した。また、それぞれの活動場面で生徒同士が話し合い、思考を深める時間を設定した。

学習Ⅱ	第3次 学んだ唄や体験を工夫し発表する方法を考える	6 / 26時間
付けたい力	聞き取りの内容を自己の生き方に結びつけながら、豊かな表現力を養えるよう主体的な発表の力を付ける。情報リテラシーの基礎力を付ける。	
生徒の学習活動例	生徒に付けたい力	教員の指導
例1) 伝承唄歌集作成やスライドショーによる発表内容の作成。 ①歌詞の意味・背景を調べる。 ②歌詞集をまとめる。 ③背景を考察し、発表方法を相談する。	★伝承唄の歌詞を収録し、その背景や意味を文章化することで表現力・思考力を付ける。 ★どんな発表方法ができるかを相談し、考える力を付ける。	○唄と生活・仕事との関係を掘り起こす教員側の準備作業。 教師用資料試作例 ・ 伝承唄パワーポイント ・ 伝承唄の歌詞や背景 ○国語科、特別活動との連携
例2) デジタル記録と作成 ①テープ起こし・歌詞 採譜 ②歌詞の入力と譜面作成 ③採譜スコアをパソコン入力 ④採譜した楽譜の発表	★音符の入力作業を通して構成力と思考力を付ける。 生徒作成資料の例 ・ 小林の遊び唄 MIDI ・ 伝承唄・スコア	○支援できるよう教員も試作する。  デジタル化した楽譜
例3) 体験記録の発表と保存 ①草履作りの実体験をする。 ②伝承唄として「チョイナ節」の歌詞について聞き取る。 ③聞き取った唄について考察する。	★草履作りの体験をプレゼンテーションなどで、発表することで構成力を付ける。 例 草履作りの実体験の記録 ★唄の背景などを聞き取り、考える力とイメージする力を付ける。	○生徒の気付きを大切にして、どんな仕事観を持ったかを確認する。  写真：わら草履作りの実体験
例4) 伝承唄等アレンジの企画 ①オリジナル曲合奏の編成 ②各パート・楽器編成 ③希望楽器の選択の手配 ④パート練習	★主体的に考え、判断する力を付ける。 ①グループ内での役割分担を主体的に行う力を付ける。 ②表現する力を付ける。	○生徒が互いの長所を認めあえるような指導を展開する。 ○音楽科との連携を図る。 ○メンバーの一員として地域学習をする主体者としての共有

⑤合同練習と楽器編成見直し ⑥合奏仕上げ・語りの挿入	③豊かな感性を培うと同時に充 実感や連帯感を共有する。	感と誇りをもてるような指導 を展開する。
-------------------------------	--------------------------------	-------------------------

学習Ⅲ	第4次 伝承唄のアレンジ曲等を全員合奏にして地域に発信する。また、そういう場の設定を企画する。	4 / 26時間
付けたい力	発表や表現を工夫し、多彩な思考力と判断力を培い、豊かな感性を養う。	
生徒の学習活動例	生徒に付けたい力	教員の指導
<p><活動1>文化祭に向けて活動。</p> <p>①全員による合奏発表の練習と発表の準備をする。</p> <p>②発表会の企画や運営について話し合う。(実行委員会の活用)</p> <p>③文化祭でアレンジ曲「ロック・ザ・ムラ」やオリジナル曲などの合奏を発表する。</p>	<p>★豊かな表現力や感性を磨き、自ら工夫し、判断する力を付ける。</p> <p>イメージ写真：大正中学校教育研究会より</p> <p>★照明や音声を充実させ構成力や創作力を付ける。</p> 	<p>○発表に向けての意義を示す。</p> <p>○興味・関心が持続するよう楽器選択を助言する。</p> <p>○なかまの音を聞き取り豊かな感性を評価する。</p> <p>○音楽科との連携を図る。</p>
<p><活動2>地域センターに出向いて学習したことを発表する。</p> <p>①地域の文化祭に参加する。</p> <p>②ポスターの作成をする。</p>	<p>★地域の老人たちと交流し共生の実践力と交流会を企画する力を付ける。</p> <p>★コミュニケーション力を付ける。</p>	<p>○地域の人々に支援を依頼し、交流がスムーズに進むように配慮する。</p>

5 研究のまとめと今後の課題

総合的な学習の時間で、地域に出向き地域の人にインタビューをして調べ感じたことをまとめて発表する実践は、多く行われるようになってきている。ここでは特に伝承唄教材に着目して、自ら学び考える力を育てるために、音楽科等の教科や特別活動、人権学習との連携を図る展開を考えた。例えば、伝承唄を解釈するときや加工するときには、音楽科で培った基礎的・基本的な力は不可欠であり、それを生かした総合的な学習の時間の設定を試みた。同時に、生徒が関心・意欲を持続させていくためには、体験活動や表現活動を効果的に設定することが大切であると考えた。具体的には、第3次において、グループやクラス全体で話し合う時間を設定することにより、思考して伝え合う力が付くことが期待される。また、コミュニケーション力や自己の生き方を見つめる力、情報リテラシーを付けることも期待できる。今後の課題は、総合的な学習の時間の目標達成をより効果的にしていくために、「教科との関連」や「地域との密着した連携」を基盤にして、生徒の視点で指導を進める方法や、学校全体の協力体制の在り方を研究することである。そして、教員自らも広範囲の準備をし、体験を重ね、見通しをもって指導計画を立てることが求められる。

参考文献

- | | | |
|----------------------------------|------------|------|
| (1) 「総合的な学習の時間(Ⅱ)」研究プロジェクトチーム報告書 | 奈良県立教育研究所 | 2001 |
| (2) 島 恒生 総合的な学習の時間の一層の充実に向けて | 同 研究紀要第11号 | 2003 |
| (3) 明治図書 総合的な学習を創る 5月号・7月号 | 明治図書 | 2004 |
| (4) 浅田 匡 「教育フォーラム24」基礎基本の育て方・教え方 | 金子書房 | 2000 |
| (5) 吉田 孝 総合的な学習と音楽科の内容との関連について | 国立教育政策研究所 | 2002 |
| (6) 人権教育の手びき第45集 | 奈良県教育委員会 | 2003 |
| (7) 御所芸術認識専門委員会 御所の伝承唄集(採譜 高崎守司) | 御所市人権教育研究会 | 2000 |

